

四日市港修築工事概要

三重縣四日市築港事務所長 渡 邊 綱 次 郎

本港に古來海運の要衝にあつて明治初年には東京との間に汽船による航路を開始され、明治三十二年開港場の指定による交通運輸上一層重要なる地歩を占むるに至り、爾來時勢の進運に伴ひ今日の隆昌を見るに至つた。

その間にあつて修築に関する議は地元の識者によつて唱へられ、明治初年より同十七年迄の間に稲葉氏等は私財を投じて所謂舊港を完成したのである。然しながら海運界の狀勢は之を以て満足するを得ないので新港の計畫となり、明治四十三年より昭和三年度迄十九年の歲月と金六百八十一萬餘圓を費し次の如き第一期修築工事の完成を見るに至つた。

防波堤	延長	526間
航路	延長	360間 幅 75間
	水深	30尺
船溜		268,707坪
運河	延長	1,465間
埋立地	總面積	241,370坪
荷揚場	延長	2,491間 幅員 4-5間
道路	幹線	幅員 20間及12間
	支線	幅員 8間及6間
	橋梁	2ヶ所
航路標識	燈臺	1。竿燈 3。繫船 浮標 8。柱燈浮標 1。標識浮標 11
臨港鐵道		2哩36鎖
上屋		1008坪

第一期工事の竣成は當地方並に後方地域の

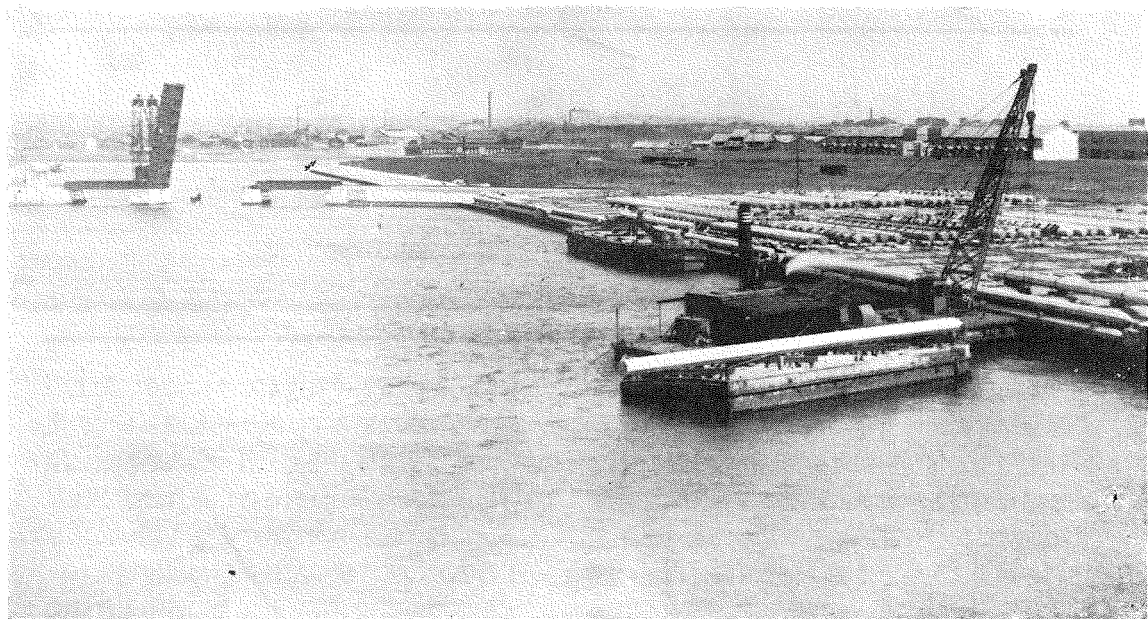
交通産業に至大の寄與をなすに至り、如上の施設のみを以てしては近代的港灣としての使命を十分に發揮し得ず、且つ出入船舶並に輸移出入貨物の増加は愈々接岸荷役設備をはじめ之に伴ふ陸上の諸施設の必要を痛切に感ぜしむるものり。依つて茲に昭和四年度より同九年度迄の繼續事業として金二百十七萬餘圓を投じ之等の設備をなす事となり、目下之か施行中で其の主なるものは次の如し。

繫船岸壁	總延長	738米 ¹
	内譯	北側 238米 ⁵
	南側	409米 ¹ 先端部 90米 ⁵

岸壁のうち南側161米¹は鐵矢板構造にして水深8米²、其の他の南北兩側は鐵筋混凝土杭式の横棧橋構造とし水深9米、先端部には小形の鐵筋混凝土函を据える。此の施設によつて同時旋繫し得る能力は北側一萬噸級一隻、南側一萬噸級一隻、八千噸級一隻又は五千噸級三隻である。

荷揚場	延長	154米 ⁵
	水深	2米 ⁴

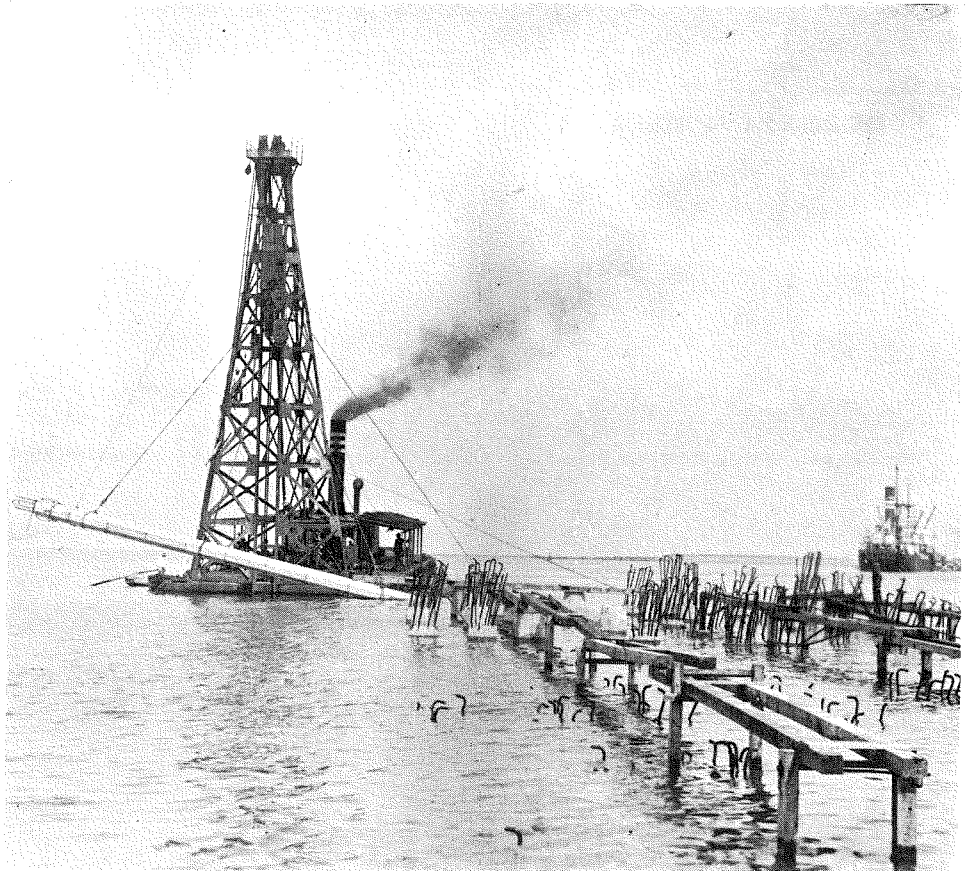
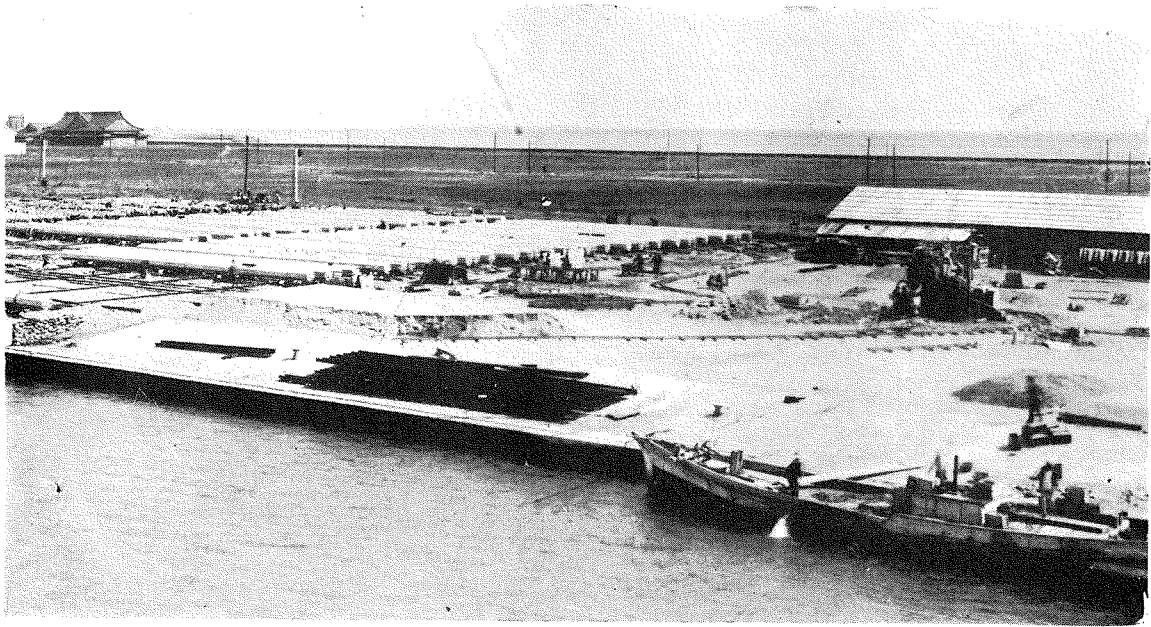
陸上設備 新設埠頭部には道路を新設し、埋立地間を連絡するため運河を横斷して「ツーリング」式公道跳上橋を架設し、又鐵道5030米を布設して後方地域との連絡を一層緊密ならしめ、尙上屋9000平方米をも建築して港灣利用上遺憾なるを期する計畫となつてゐる。(以上)



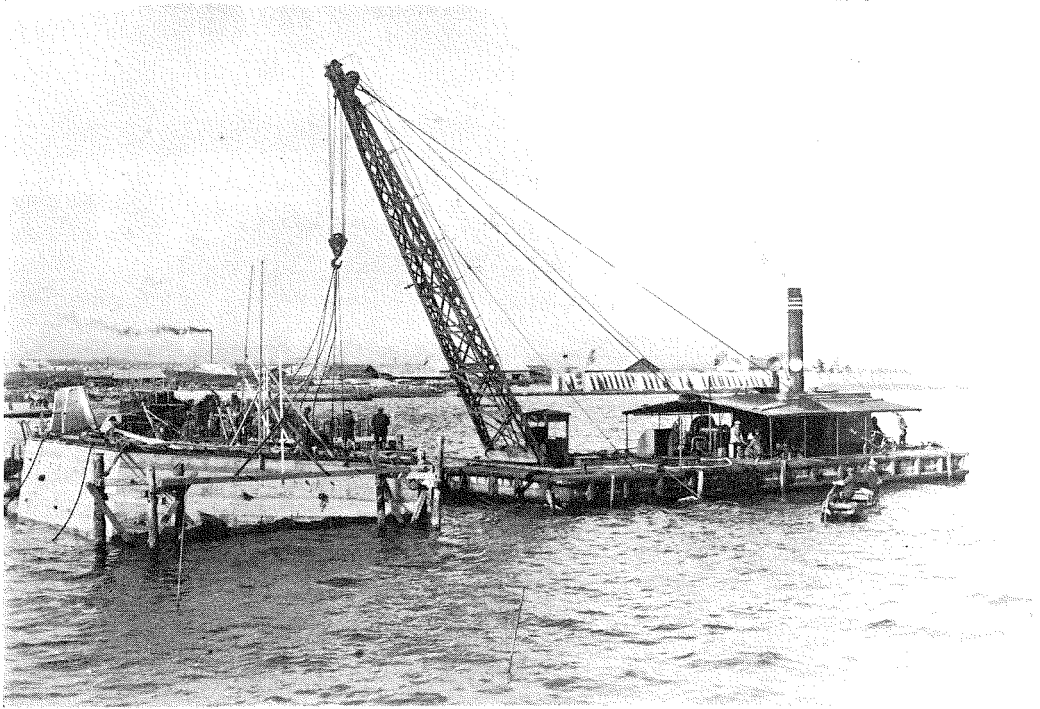
1. 四日市港鉄筋混凝土杭製作工場全景とリンク式鐵道跳上橋。

2. 杭製作工場に於ける混凝土杭移轉狀況。





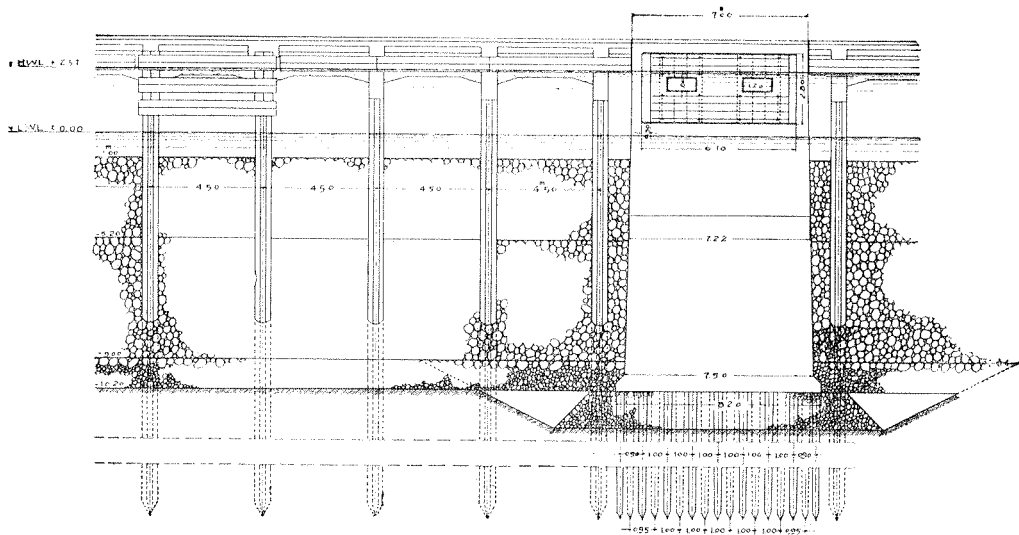
3. 鉄筋混泥土杭建設作業、杭の太さ一辺264cmの正八角型、長22.5~25.0m。



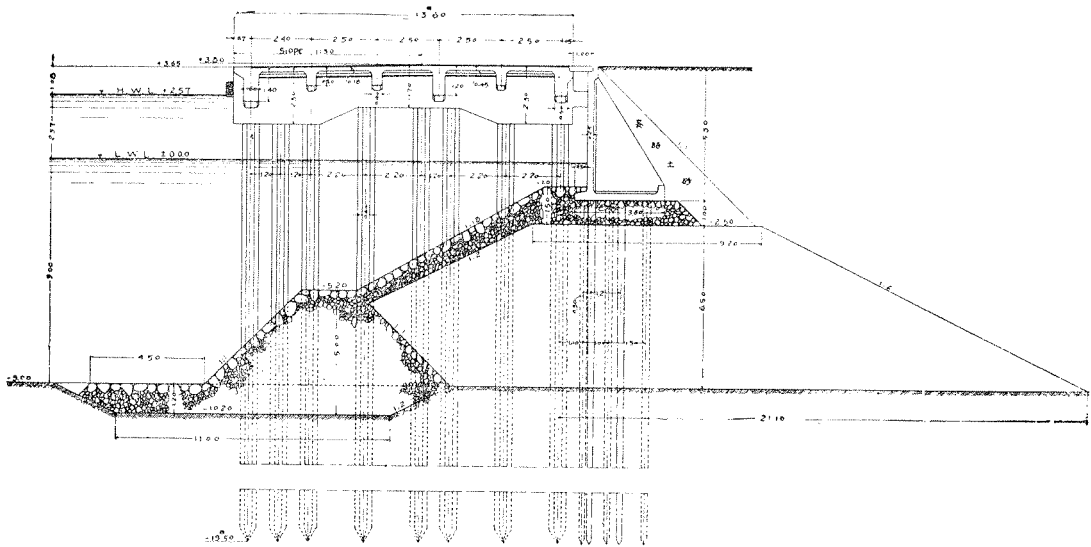
4. 鐵筋混擬土ケイソン沈設作業。



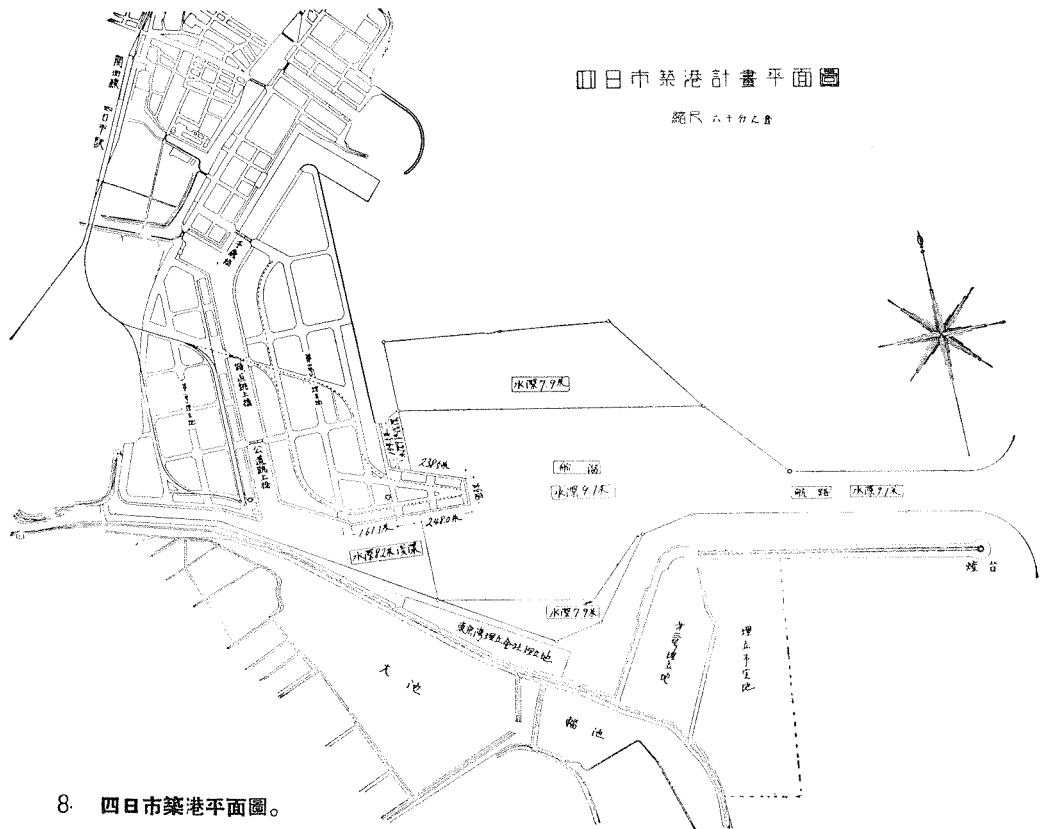
5. 工事中の埠頭横橋全景。



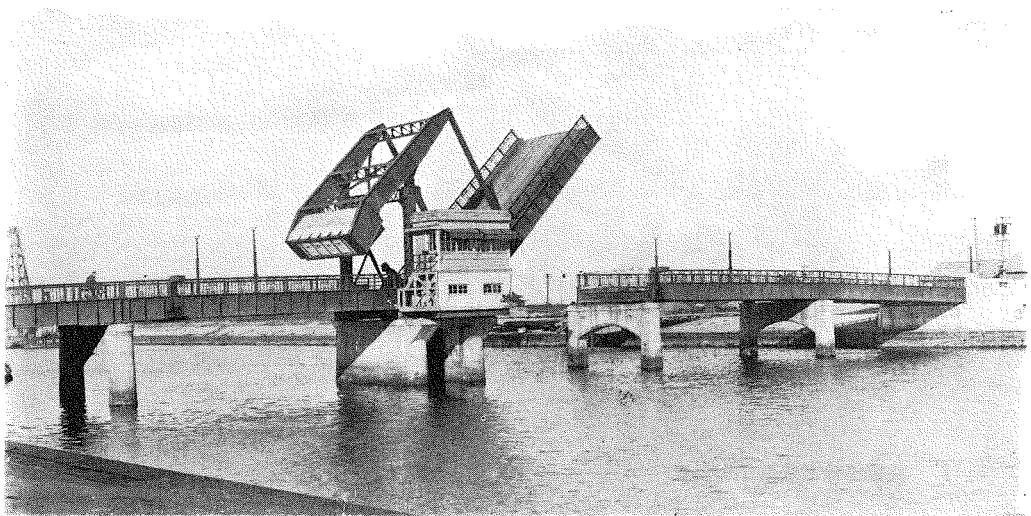
6. 横棧橋構造圖其一正面。



7. 横棧橋構造圖其二断面。



8. 四日市築港平面圖。



9. 破功せるツーリンク式公道跳上橋。